

第1章

水道ビジョン策定の主旨

1.1	策定の背景と目的	2
1.2	計画の位置づけ	3
1.3	計画期間と目標年次	4





1.1 策定の背景と目的

我が国の近代水道は、明治 20 年に横浜で誕生し、市民生活や経済活動の発展、生活水準や公衆衛生の向上に大きく寄与してきました。

しかし、近年の少子高齢化や人口減少社会の進展、環境問題の深刻化、情報通信技術の進歩などの急激な社会構造の変化、規制緩和や地方分権の進展などの経営環境の変化、加えて、生活様式の変化や水道に対する意識の変化などにより、水道事業者にとって、これからの水道事業の運営を見直すべき時代を迎えています。

新居浜市の水道は、昭和 29 年の創設以降、市政の発展や市域の拡大などに伴い増加する水需要に対応するため、6 次につながる拡張事業で水道施設の整備を進めてきました。

その結果、平成 21 年 3 月には給水人口 119,460 人、給水戸数 53,097 戸、普及率（給水人口 / 給水区域内人口）は 94.5% に達し、拡張の時代から更新・維持管理の時代に移行しつつあります。しかし、今後の水需要は長期的な低迷が予想されるなか、戦後から高度成長期にかけて建設された水道施設は老朽化が問題視されるとともに、施設の耐震化・高機能化などを図った再構築も求められています。さらに、市民の水道に対して多様化するニーズも的確に把握し、それに応えていくことも必要とされています。

このような背景をふまえ、厚生労働省は平成 16 年 6 月、水道関係者の共通の目標となる水道の将来像を明示した『水道ビジョン*』を公表しました。その中で提起されている「安心」「安定」「持続」「環境」「国際」の政策課題に関する目標を達成するため、各水道事業者は、自らの事業の現状と将来の見通しを分析・評価し、目指すべき将来像を描き、その実現の方策などを示す『地域水道ビジョン』の作成を推奨しています。

このことから、本市水道事業の現状を分析・評価し、その将来像と実現のための施策目標や施策方針などをまとめた中長期的な経営基本計画として『新居浜市水道ビジョン』を策定しました。

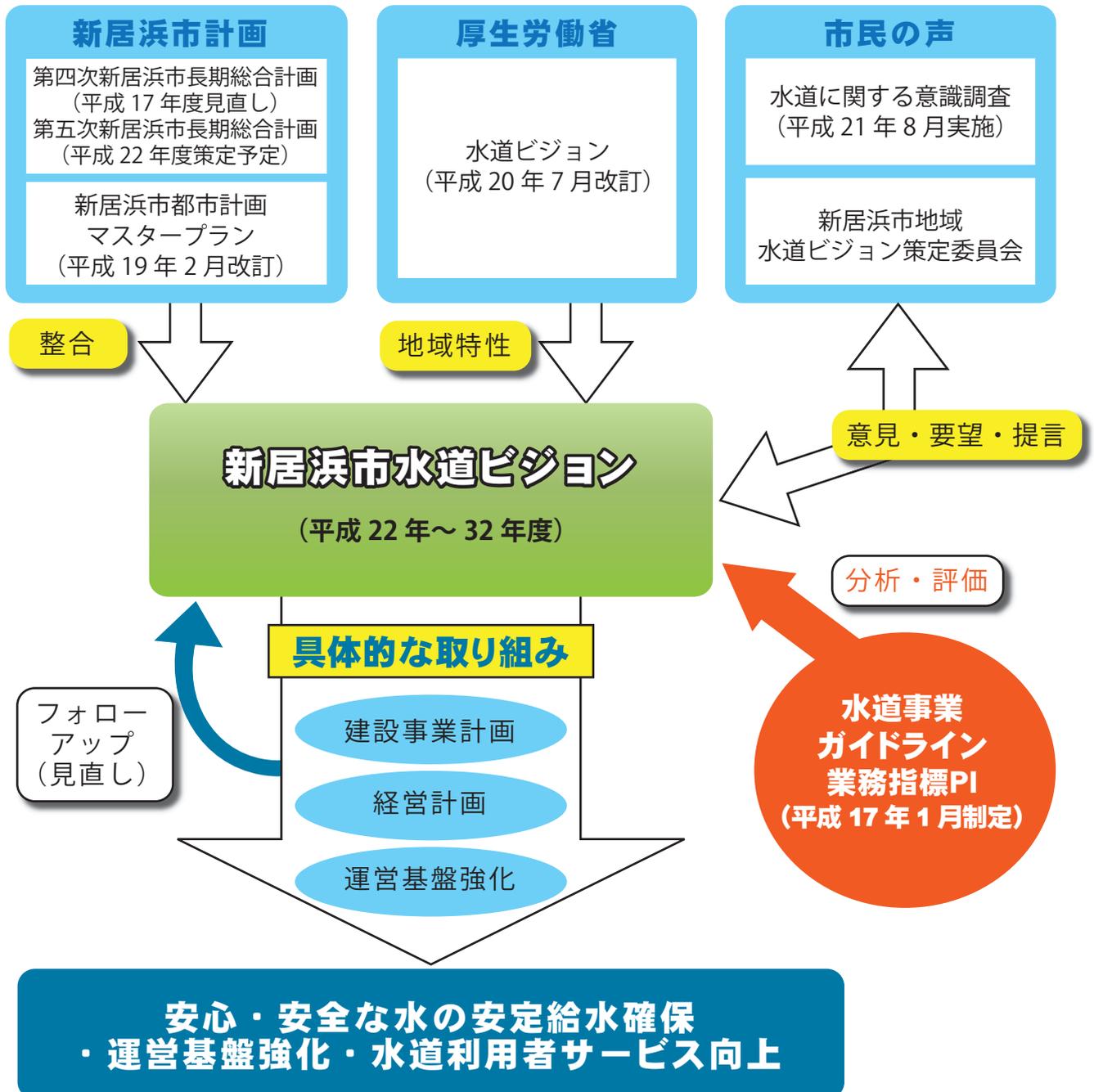


1.2 計画の位置づけ

新居浜市水道ビジョンは、厚生労働省が策定した水道ビジョンを受け、新居浜市独自の地域特性を持たせた計画として策定しています。

策定にあたっては、新居浜市長期総合計画や新居浜市都市計画マスタープラン*などと整合を取りつつ、それらの方針に沿って精査・検討し、また、市民の声を念頭に、水道に関する意識調査（市民アンケート）や新居浜市地域水道ビジョン策定委員会の意見や要望を反映させるとともに、水道事業ガイドライン業務指標PI*などの客観的データに基づいて事業の分析・評価を行いました。

なお、本ビジョンに示した目標は、個別計画として具体化を検討するとともに、財政状況や水道利用者のニーズ、社会情勢などの変化をふまえ、定期的な見直しを図っていきます。



1.3 計画期間と目標年次

水道ビジョンの長期目標期間は 21 世紀の中頃を見通したものですが、新居浜市水道ビジョンに掲げられた具体的施策の計画期間は、計画初年度を平成 22 年度（2010 年度）、計画目標年次を平成 32 年度（2020 年度）と設定し、計画期間を 11 年間としています。

なお、具体的な施策の達成状況については、適宜、施策・方策の追加・見直しを行います。

